

# カレー王国

## とっとり夢を見て

### 鳥取商工会議所青年部 とっとり活力発信委員会

#### 鳥取市民、実は 日本一のカレー好き



鳥取が日本一のカレーの街であることをご存じだろうか。全国の県庁所在都市の中で一世帯あたりのカレーの消費量で見ると鳥取市が一番多いという結果が出ている。ここに黄色い表紙の観光ガイドマップがある。名前は「とっとりマップ」もっと知りたい鳥取の味道楽編、三作目となる今回は、鳥取商工会議所青年部の谷本暢正さんと阿部高志さんがそれぞれ委員長と副委員長を務める「とっ



“とりマップ” ~もっと知りたい鳥取の味道楽編~

とり活力発信委員会」が、岩美・気高両郡六町村の商工会とともに、地域活性化のアイテムとして鳥取の「カレー」についてまとめたものである。委員会の十七名のメンバーが集まり、地域活性化の起爆剤となるような鳥取ならではの食べ物、一年近くかけて模索しているとき、とっとり観光かたりベG(グルメ)7の会員からの「おいしければいいんじゃない」、「私もカレーは好き」の言葉に、全員異議なしで決まったらしい。カレーは鳥取で理屈抜きに愛されているメニューなのである。

#### 地元の食材と知恵で カレーを創造する

鳥取カレーと認められるには、食材が要件となる。三十二万石カレーの名前も持



谷本委員長(右)と阿部副委員長(左)

つ鳥取カレー、江戸時代に有数の米どころであった鳥取、米は当然「鳥取米」である。次に鳥取である以上、鳥卵も含めて「とっとり」にこだわる、それも豊かな自然に育まれた「地鶏」であればなおよし。そして、主役の座をも凌駕しそうな名脇役「砂丘らつきよう」である。これらを満たせば、晴れて鳥取カレーとしてお墨付きとなるのである。これ以外にも、それぞれの店で特色を出し、地元の新鮮な野菜や山菜、梨、イカや岩ガキ、イガイなど、海・山の幸をふんだんに使用したのももあり、まさに地産地消の優等生である。そして、アイデアは味覚にとどまらず、視覚でもアピールする。チキンカツとゆで卵で月の砂漠をイメージしたもので、多鯨ヶ池や白うさぎを表現したものなど、舌だけでなく見

た目にも楽しませてくれるのである。今のところ十三店舗とその数は決して多くはないが、鳥取の食の集大成とも呼べるほど、鳥取の豊かな自然を背景に、多くの人たちの知恵と工夫が満載なのである。

#### 鳥取をほんとうの カレーの街に

鳥取カレーを地元の人だけでなく、訪れる人たちにも味わってもらいたいと、智頭急行のスーパーはくとの車内にも、とっとりマップは置いてある。先日、鳥取市で開催された日本陸上選手権に集まったアスリートたちも、とっとりマップ片手に、お目当ての味を求めたよう、ジャージ姿のお客さんで一杯になったお店もあったとか。次に委員会のみなさんが楽しみにしているのは、しゃんしゃん祭の賑わい屋台村である。ここで、たくさんのお店が自慢の味を競い合うのを心待ちにしている。また、その屋台には阿部さんもオリジナル・カレーをデビューさせる。いったいどんなカレーがお目見え

するのか、外野のアドバイスは数知れず、「その日までにできあがるだろうか」とは阿部さんの弁、周囲の期待が大きいだけにプレッシャーも相当のようである。ところで、鳥取カレーのあるべき姿を問われて委員長の谷本さんは、「売上にこだわるのではなく、鳥取の人が自慢できるようにものとなることを願っている」そして、カレーの街として知られる横須賀にあるカレーの殿堂「カレーミュージアム」に殴り込みをかけるのが夢」と谷本さんと阿部さんは口をそろえて言う。二人の思いはホットでスパイシー。話を聞きながら、鳥取には天然のカレー・モニユメントがあったことを思い出した。超特大のカレー、夏真っ盛りで熱々の鳥取大砂丘である。あつやつやケドしそう!



「ほとなカレースペシャル」地元の食材をふんだんに使った具だくさんカレー